

### 広報モニター 取材レポート

10月26日から11月5日まで、文化会館など7会場で市民文化祭が行われました。また、5日には市役所駐車場・芝生広場でフリーマーケットも開かれ、どちらも多くの来場者でにぎわいました。秋真っ盛りの海老名を彩る両イベントの様を、広報モニターの下園さん(国分寺台)、下園さん(国分北)に、それぞれ伝えてもらいます。

## 海老名の秋彩る 2つのイベント



「売り上げはユニセフに寄付します」と張り切る海老名中学校の生徒たち(フリーマーケット)

## フリーマーケット

### リサイクルの時代を実感

前日までの天候がうそのように晴れ渡り、絶好のフリーマーケット日和となりました。取材の前に「開始から1時間が勝負」と聞いていましたが、その言葉どおり、午前10時の開始前からたくさんの方が集まり、フリーマーケットの人氣ぶりを物語っているようでした。



品物を見て回る下園モニター

### 「売り上げを寄付」に感動

ので、出店者に選ばれたというのでした。文房具や洋服など多数の商品に囲まれて、女の子たちが大きな声で元気よく客寄せをする姿が印象的でした。20代の私よりもさらに若い世代が、リサイクルの一環であるこのフリーマーケットに参加して、慈善事業に貢献する行為を見て、感動を覚えました。

フリーマーケットには、「長年使ってきた愛着のある品物を手放すのはつらいが、もっと有効に使ってもらえれば」という、売り手の思いがあります。もはや使い捨ての時代は終わり、リサイクルの時代に突入しました。売り手の思いを無にせず、「物は大切に使わなければ」ということを、彼女たちに、また、フリーマーケット自体に、教えてもらった気がします。(下園直人)

## 市民文化祭

### 参加の喜び熱く伝わる

快晴の秋の日、大ホールのロビーに清楚に咲き誇る菊花の波に迎えられて、文化会館に着きました。海老名市民文化祭も33回を重ね、晩秋のイベントとしてすっかり市民の間で定着してきています。今年も「振り返ってみよう海老名の文化」をメインテーマに掲げ、20世紀を総括しようという意気込みが感じられました。79団体に個人参加を加えた総勢約2700人が結集して多彩なパフォーマンスを繰り広げ、約2万人近い観客が来場したという事です。

早稲私も文化祭を楽しみながら、みなさんのお話を聞いてみました。大勢の観客の前で演舞する喜びを話す方や、展示した作品を褒められた晴れがましさを語る方の様子には、文化祭に参加した意義が十分感じられました。

中には、日ごろの成果をわずか数分に凝縮しなければならぬ出演者や、展示個所の位置関係で来場者数が今一歩という作品などもあり、文化祭への不満がないとはいえなかったことも事実です。「文化」が人から人へと伝わることにより生かされるものならば、文化会館や市民ギャラリーにこだわらず、各コミュニティなどで地域に根付いた形の「ミニ文化祭」をもっと活発に実施してもよいのではないのでしょうか(一部コメントで行われ、成功したと聞いています)。最後に、私が最も感動したのは、ある写真グループが、市民文化祭の展示作品を高齢者施設に寄贈し、見る方の目を楽しませようという企画している話です。文化祭で培われた実力が、会場を飛び出し広く市民の中に浸透していく、実にすばらしいことだと思えます。(塚澤博)

### 多彩な催しに約2万人



大ホールで行われた舞踊(上)と展示の菊に見入る塚澤モニター(下)

## 海老名むかしばなし

る、二一七〇番地の現在地に住宅を移された。宅地は広く、大正半ばごろの構えは、門を入ると左手に医院、その北側に住宅、西北隅に土蔵、東部に長屋、その南に手洗所を兼ねた人力車庫、庭には池まで築いてあった。医院は洋館造りで、能筆家でもあった市三郎氏の筆による「復古堂医院」という看板が掲げられ、内部は待合室、診察室、処置室、薬局と区切られていた。

氏の業績の一つに、「自治団体之沿革、副題神奈川県名譽録―高座郡の部」という抜粋本に次の記事がある。

「小泉鐘司 高座郡有馬村門沢橋 會て中郡相川村に天然痘が発生して流行蔓延して近里近郊を戦々恟々たらしめたが、君は多大の犠牲を覚悟して無料を以て種痘を施したのであった。しかも四五箇年之を継続したという。美談として永く郷党の間に語り伝えていくが本県並びに相川村は其功を表彰して木杯一組を贈った」と。何のゆかりがあつてか、相模川を越えて他村まで愛の手を差し延べられたとは、人の胸を打つ行為である。「同書はなお、『明治十六年開業したが徳望高き名手として忽ちに信賴されて県下に有数の繁栄を極めたのであった』との讃辞をも贈っている。地域内でも「お医者様」の敬称で呼んでいたそうだから、その名匠ぶりがしのばれる。

氏は、社会的にも村会議員に選出され、村政に貢献されている。大正十五年から昭和四年までの一部の会議録に、二番議員としてその名が見える。別にこの前後、戸数調査委員に選ばれたり、衛生組合設立委員に推薦されたりで、幅広い活動をなされている。



小泉鐘司氏

白い髭を貯えた福徳の相の翁の趣味は、囲碁と釣りにあった。その頃は公民館もコミュニティセンターもなかったため、自宅の南方の奥まったところにある正覚寺の本堂がよく利用された。氏はそこへ現存の碁盤一式を寄付され、同好の士の便に供された。また、鮎の豊漁の時は沿道の親しい家に裾分けもなされた。家族は田舎で、夫人セン氏は内助の功に厚く、長女キヨ氏は薬局担当、済生学舎出身の市三郎氏は共に医業にと、それぞれいそがしまれた由である。以上、今回調査の結果さまざまのことが判明し、俚言「有馬医者」の中でも桃園父子は瞳目され、重きをなしておられたであろうことを明らかにすることができ、筆禍の責を果たせたかと思っている次第である。(池田 武治)

電話で海老名の昔話が聞けます

12/5まで

第255話

草鞋のはき方で  
正体を見破られた狐

12/6〜1/4

第256話

いびきのお稲荷様

233-3333333  
みんわみんわ



かがみ 子どもの鑑

### 思いつづくままに 父親として3

「してみせて、言っかけてきかせて、させてみて、褒めてやらすば、人は育たず」指導者として、宥戒者として、あるべき姿勢を示す、山本五十六の言葉ですが、褒めるということとは、本当に大切なことだと思えます。

だから、子どもに対してのしつけは、もっと厳しくしなければいけない、ということだけを言いたいわけではありません。程度の問題だとは思いますが、私は今の父親に対して、「自然たる態度」が欠けているのではないかと、う不満を持っています。

もともと、今の子どもは、親の代に経験してきたものが、経験できなくなったという気の毒さがあることは、肯定せざるを得ません。ましてや子どもは、友達を選ぶことはできて、親を選ぶことはできないわけですから...

こんなふうになると、父親としての自覚と責任をもつとも意識しなくてはならないと思います。かと言って、あんまり意識しすぎていけない。子どもは、もともと親の思うとおりにならないのが当たり前で、むしろ、親のするとおりになるということ、わかまえておくことこそ大切ではないでしょうか? (今回「父親として」ということで、3回シリーズで書かせていただきましたが、意を尽くせませんでした。)

海老名市長 亀井 英一

す。家庭においても、学校においても、また、職場においても、当てはまることです。今始まったことではありませんが、子どもは、褒めると甘えるし、しからないとナメてかかるし、親しくするとつけあがるものです。